



### 地盤沈下・液状化

勝占地区は勝浦川や多々羅川があるため、地盤沈下や液状化が起こりやすくなっています。

勝浦川は、古代、丈六寺付近から東流して小松島港に注いでいました。中世以降、JR勝浦川鉄橋の下流から北に折れて大松町上の口で分岐し、1つは多々羅川と合流して旧大松川となり、他方は論田小学校付近を通過して打樋川に繋がっていました。江戸時代に入って千代ヶ丸の横を通る現在の水路が作られると、旧大松川の水量は次第に減少して、1955年に廃川となりました。南部中学校等は旧河道上にあります。旧河道や埋立地、それらの周辺は地下水が豊富なため、地盤沈下や液状化が起こりやすいと考えられます。

【参考図書】勝占中部の民俗と歴史Ⅱ、勝占中部ロマンとやすらぎの里実行委員会編、1993年。

### 国道の最低地点

国道55号(勝占中部地区)の最低地点はこの付近です。大雨時に国道を使って避難する際は注意が必要です。

### ブロック塀・瓦

ブロック塀は根元から道路側に倒れると道路が閉塞します。写真のような土葺きの瓦は落下しやすくなっています。無人家屋の劣化にも注意しましょう。



### 河川を遡上する津波

河川を遡上する津波は速く、遠くまで伝わり、高さも増す可能性があります。樋門から氾濫したり、橋に衝突して氾濫する危険性もあります。漂流物は凶器になります。勝浦川は西側堤防(雑賀、大松側)の方が東側堤防(論田、大原側)より低くなっています。河川から離れるように避難することが重要です。

### 大松小学校 かぎ保管庫と建物入口



入口

### 勝占中部コミュニティセンター かぎ保管庫と建物入口



入口

### 南部中学校 かぎ保管庫と建物入口



入口

### 旧大松川の堤防

旧大松川の西側旧堤防の地盤高さは5m程度あり、幅も十分なことから、地震で崩れていなければ緊急避難場所として利用できると思われます。



### 徳島市 地震・津波 防災マップ



南海トラフ巨大地震で想定される震度分布、津波浸水域・浸水深、家庭での防災対策、災害情報の入手先、避難時の持ち出し品、避難生活等の情報が詳しく書かれています。徳島市役所7階、危機管理局防災対策課(088-621-5527)で入手できます。2014年3月発行。

製作：勝占中部コミュニティ協議会、勝占中部地区自主防災連合会、南部中学校生徒会、徳島大学 環境防災研究センター、徳島大学理工学部 河川・水文研究室、徳島市  
問合せ先：勝占中部コミュニティセンター(088-669-1671)  
【この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 平31徳島市指令部政第36号)】

